

マアナゴの産卵場所を沖ノ鳥島南方で発見

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010062

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



マアナゴの産卵場所を沖ノ鳥島南方で発見

増養殖研究所 資源生産部

共同研究機関：東京大学大気海洋研究所、九州大学大学院農学研究院

研究の背景・目的

1. マアナゴは、寿司や天ぷらの食材として人気がある魚で、日本のみならず、韓国や中国でも漁獲され、東アジア全体での水産重要種です。
2. 漁獲量は近年減少しており、我が国では、1995 年から 2008 年の間に半減しています。国内での主漁場は、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海、日本海西部、東北沿岸などで、多くの地域では、資源回復を目指して、小型魚の漁獲を規制するなどの資源管理の取り組みが進められています。
3. 効果的な資源管理を行うためには、産卵親魚を保護するなどの、資源全体の底上げを図る対策が有効ですが、これまで成熟した親魚の漁獲例はなく、いつどこで産卵が行われているかなど、基本情報といえるマアナゴの生活史はほとんど解明されていませんでした。
4. 本研究では、2008 年のウナギ産卵場調査（水産庁開洋丸等）のサンプルを精査し、マアナゴの初期生活史、産卵場所に関する情報を得ることを目的としました。

研究成果

1. マアナゴの孵化後間もない仔魚（プレレプトセファルス）計 8 尾を採集することに初めて成功しました。そのうち最も若い段階のもの（図 1）は、孵化後日数 3-4 日と推定され、産卵場は採集場所の近くにあると考えられました。種は DNA 鑑定によって確認されました。



図1. マアナゴのプレレプトセファルス(全長 5.8mm)

歯、顎はまだ形成されていない

2. 最も若いマアナゴ仔魚採集場所は、沖ノ鳥島から約 380 km 南の海域で、仔魚の採集位置と同時に観測した海流から計算すると、沖ノ鳥島南方の九州－パラオ海嶺上の海域がマアナゴ産卵場所の一つと特定されました（図 2）。また、仔魚の採集時期から、マアナゴの産卵期は少なくとも 6 月から 9 月の間であることが明らかになりました。



図2. 孵化後間もないマアナゴ仔魚の発見場所

ベージュ色：海嶺と呼ばれる海底山脈を示す

波及効果

1. 産卵場の発見により、マアナゴ資源の変動要因を解明する調査研究への糸口が得られました。
2. 外洋での産卵場の発見は、東アジア全体で同一のマアナゴ資源を利用している可能性が高いことを示しています。これらの知見は、今後の資源管理のための貴重な科学的根拠となるものと期待されます。